

「国際産業交流会館」への可能性 1

——「国際産業交流会館」の必要性の検証より施設の方向へ。

国際的なビジネス開発資産よりの開発の可能性とニーズ

〈東三河エリアの可能性因子〉

- ① 三河港周辺エリアへの欧州からの大手海外資本の相次ぐ進出。
——バイエルン・M.ベンツ／VW／ローバー 等
- ② 自動車輸出入量の増大により急激に外国貿易が伸び、国際的な流通港湾へと展開しつつある三河港エリア。
——S.61の輸入額は清水港を抜き全国7位へ。
- ③ 海洋＆山間レジャーゾーンを背後に控え「三河湾リゾートエリア」としても位置付けられ、各種リゾート開発が進む東三河エリア。
——豊橋表浜リゾート／田原リゾート／蒲郡リゾート 等
- ④ 「新伊勢湾都市圏」「三遠南信エリア」のいずれの圏域からも国際産業流通拠点としての責務を負う当エリア。
- ⑤ 豊橋におけるコンベンションビューロー設立に向けた取り組み。

三河港の物流、三河エリアへの産業集積、三河湾リゾートエリアとしての期待 等を背景とし、名古屋ブロック・蒲郡ブロックとの差別化・分業化を図ったメッセ(大型展示・販売)型コンベンション場の形成。

E C統合による欧州市場拡大化、外国貿易の拡大化 等の国内外情勢を考慮し、中部圏及び三遠南信エリアを支える国際貿易港を目指しての、三河港への商取引機能の導入。

〈社会トレンド-内〉

- ・大型余暇ビジネス市場の拡大化、海洋レジャーの本格化。
ターゲット トヨタ／ヤマハ発動機／三菱重工
神戸製鋼／川崎重工／ホンダ 等
- ・流通経路の再編・短縮化、直販化への移行。

〈社会トレンド-外〉

- ・貿易自由化への国際的要請の高まり。
- ・1992年E C統合による欧州市場の拡大化を考慮しての輸入拡大化への対応。

国際交流資産よりの開発の可能性とニーズ

- ① 東三河エリアでの姉妹都市提携を軸とする国際交流活動。
——豊橋市－中国江蘇省南通市(S.59)
豊川市－米国キュパティノ市
- ② (財)豊橋国際交流協会を設立(H.1)、「国際交流村構想」も打ち出して活発に活動を展開する豊橋市。
- ③ 企業レヴェルにおける諸外国との関係の深まり。
——M.ベンツ社の三河港進出を契機として豊橋日独協会を設立。

従来の「交流」にとどまらず、当エリアの産業資産を活かしつつ、技術研修・技術移転 等を含む「国際協力」「国際協調」に真に貢献できるような地域体制づくり。

〈社会トレンド〉

- ・国際協調への貢献の要請。
- ・企業の海外進出化。
- ・帰国子女問題への対応。

地域コミュニティ資産よりの開発の可能性とニーズ

- ① 優れた【自然・観光・産業・歴史】資産を有しながらも、それらの情報・連携ノウハウ等が蓄積される場がなく、有効にアピールされていない東三河エリア。
- ② 過疎化、高齢化、地場産業の衰退化の進む三河山間地域。
▽
「あいちの山村都市交流事業」をはじめとする山村－都市交流、海と山との交流、豊川上下流の一体化があってこそ実現化される東三河全域の発展。

東三河／三遠南信エリアに求められる県際を越えた文化的・都市的共同戦線の構築により、地域資産・人的資産の集約化へ。

〈社会トレンド〉

- ・地域経営戦略、地域C Iの必要性の高まり。

【産業ビジネスレビュー・コンベンション】

東三河エリアの基幹産業となりうる「大型余暇ビジネス(オート&マリンリゾート等)」をはじめ、大型商品の展示・見本市をターゲットとしたコンベンション場の開発。

【プロデューサーズ・オフィス】

「業態革新」推進に向けてのディベロッパー・スタンスによる産業ビジネス・プロデュース機関の形成。(コンサルティング・ビューロー等)

【トレードセンター】

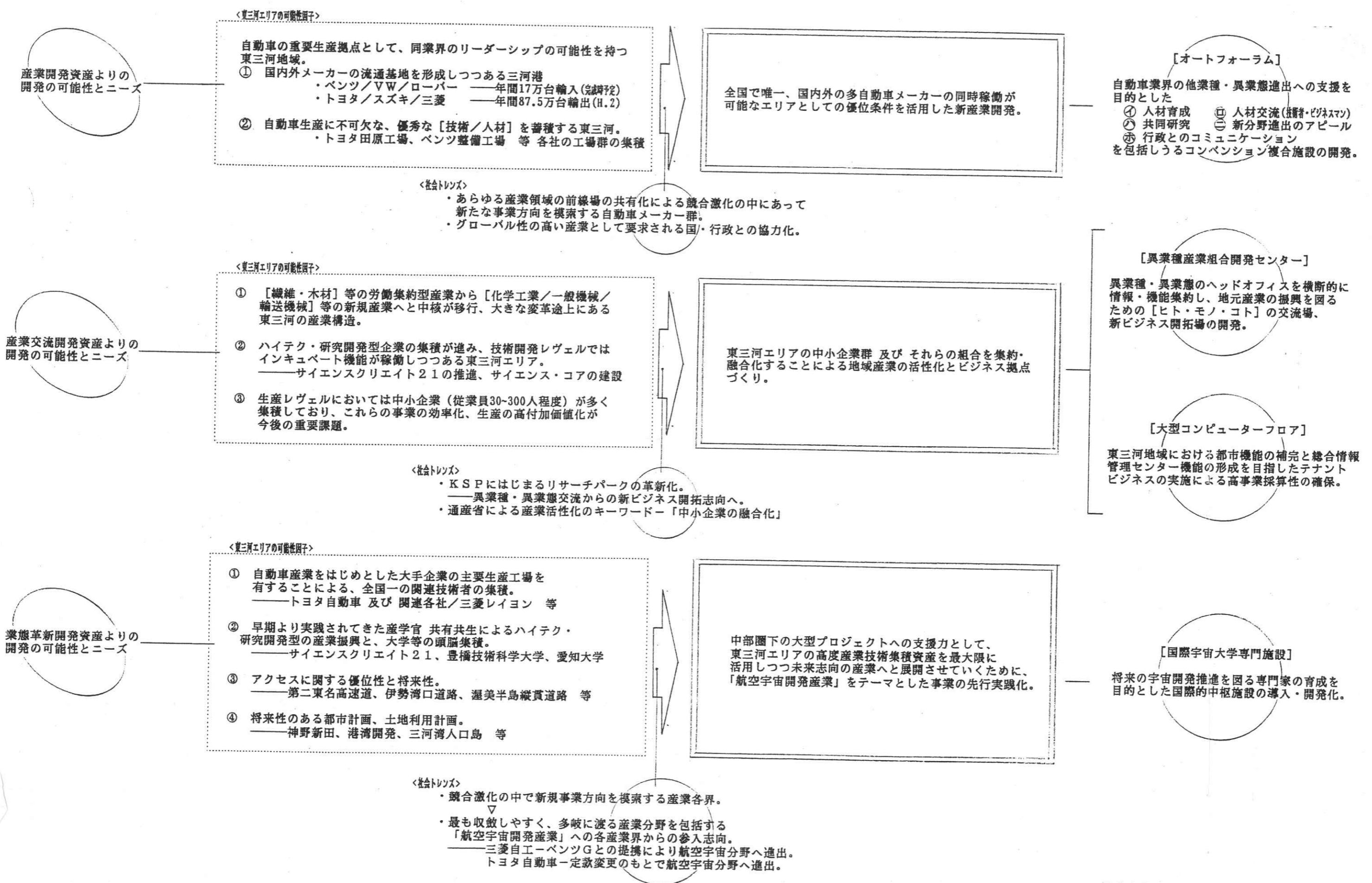
諸外国企業 のオフィス群を集約化したビジネスゾーンと、それらに関連して来訪及び在住の増加しつつある技術者／研修者／留学生を含む外国人を主ターゲットとした国際的レヴェルでの【情報／人／ビジネス】の交流・支援場の開発。

【研修施設】

海外よりの研修者 及び 当地域の企業/団体をターゲットとした研修場の提供と、各種ビジネス＆ライフサポートサービスの提供。

【東三河産業館】

東三河の【産業／文化／歴史】資産を集約・紹介する場の開発と、それらを後世に継承していくためのシステムの構築、及び 来訪者に向けた観光・地域情報提供。



「国際産業交流会館」への可能性 2

04

——「中部圏内の大型プロジェクト支援に必要な本質的資産は東三河にあることの検証。

- 1 トヨタ自動車を筆頭に大手企業の主要生産工場を有し、ものづくりの現場として国際的レベルを誇る三河エリア。関連技術者集積として全国一。

例示：トヨタ自動車を頂点とする系列メーカーG各社の集積。
臨海埋立て地区への大規模敷地を要する企業群の集積。

- 2 豊橋港周辺エリアへの大手自動車メーカーの相次ぐ進出、地元大手自動車メーカーの輸出量の増大により、わが国有数の自動車流通基地となりつつある三河港。

M.ベンツ／VW／ローバー 年間17万台輸入（完成時予測）
トヨタ自動車／鈴木自動車／三菱自動車 年間87.5万台輸出（H.2）

- 3 全国レベルの大手メーカーにおける生産拠点のリストラクチャリングに伴い、相次ぐ新規生産拠点の東三河エリアへの建設。

平成2年度上半期の工場進出面積において全県の63%を占める。
新規進出メーカー：神戸製鋼／愛知ニコン／M.ベンツ／
拡大化メーカー：トヨタ自動車田原工場／トピー工業／三菱レイヨン
新設工業用地：萩地区（音羽町）／八名地区（一宮町）／佐脇浜（御津町）等

- 4 メーカー全般に共通する最大の課題である優秀な技術者・工場労働者の確保の観点より、課題の山積する生産拠点の海外展開。

▽
全国的な産業空洞化の懸念に反して今後も集中・継続が予想される、
工業生産地域としての実績による他エリアにない優秀な【人材／技術】を
蓄積する三河エリアへの新規生産拠点進出。

- 5 早期より実践してきた、公共・民間の共有共生によるハイテク・研究開発型産業振興。

「サイエンス・クリエイト21」構想の推進。
—「(財)東海産業技術開発財団」(S.62設立)による研究助成事業
—第3セクター「(株)サイエンス・クリエイト」を事業主体とする
東海地域で初めての民活法適用事業に認定された「サイエンス・コア」
の建設(H.3.4着工予定)
豊橋技術科学大学を核とした積極的な产学共同による研究開発の実践。

- 6 国内外に向けた【人／物／情報】の交流・発信が容易な広域交通網の結節点である。

① 國土軸である、東海道新幹線／東海道本線／東名高速道路／
国道1号線 を保有。
② 國際貿易港 三河港の保有。
—自動車輸出入の増大により、昭和60年代から国内貿易を抜いて
急激に増加を続ける三河港の外貿。
③ 【文化/伝統/観光】資産の宝庫である三遠南信エリアを背後地とする。

- 7 利便性の高い地区への、国内大型プロジェクトの誘致・実施のためのまとまった規模の土地を確保できる。

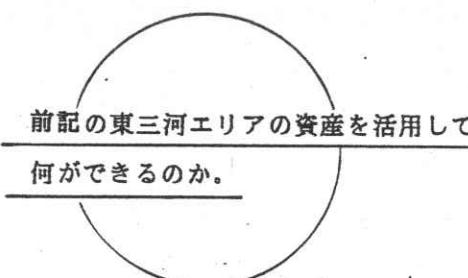
三河港を含む臨海地区を中心とした東三河エリアの工業適地は計16ヶ所、
立地可能面積 987 ha。(H.1年度愛知県工業適地調査より)

愛知県／中部圏における実質的な企業の投資は三河エリアへ向けて投下され続けている。

—自動車生産、工作機械、弱電におけるトップメーカーの生産・開発ラインの拠点群として稼働。

「国際産業交流会館」への可能性 3

——東三河エリアの本質的資産の活用から入る「国際産業交流会館」の事業位置。



中部圏の大型プロジェクト群へ向けての、
東三河エリアの【産業／技術／人材】資産を活用しての事業支援。

——【産業／技術】を基軸とした開発ネットワークの事業形成による
大型プロジェクト群への開発投資の獲得へ。

① 三河エリア資産を最大限に活用し得る開発テーマの設定
——「航空宇宙開発産業」の拠点形成

② 「事業ネットワーク」としての展開・可能性
——大型プロジェクトの 投資獲得／機能構築における相互支援。

- | | |
|---------------|-----------------|
| ① 「中部国際新空港」 | ④ 「中央リニア新幹線」 |
| ② 「清算事業団用地開発」 | ⑤ 「豊橋ウォーターフロント」 |
| ③ 「愛知県頭脳センター」 | |

従って、ここまで複数の検証と可能性より、



東三河エリアの民間・行政上の窓口として、
当エリアの【産業／技術／文化】資産を集約し
愛知・中部圏プロジェクト群に向けた支援力の
結実を図る拠点として稼働。

[国際産業交流会館] における 基本的事業内容一覧

I

コンベンションゾーン

1. 「産業ビジネス・レビュー・コンベンション」
東三河への産業集積の優位性を生かした展示・見本市の開催。
- 詳細別紙
- ① 「大型余暇ビジネス」領域にテーマを絞ってのコンベンション事業の誘致。
 - ② 「航空宇宙産業開発」上に展開する各種イベント事業。
 - ③ 「プロデューサーズオフィス」（コンベンションビューロー含む）におけるコンベンション事業へのオペレーション。
——運輸・観光・マスコミ・飲食・宿泊 等、関連企業との連携による複合オペレーション。
 - ④ オートフォーラム内「オフィス支援センター」のサービスカウンターにおける「オフィス支援ビジネス」の実施と各種コンベンション支援サービスへの取次ぎ。
2. 三河エリアの企業・組織団体に向けた研修」の場の提供。
- ① 研修室のレンタルスペース事業。
 - ② 施設利用者に向けた「生活支援ビジネス」「オフィス支援ビジネス」の実施。
3. 「東三河産業館」
地元の【産業／文化／歴史】を次世代へ伝承し、地域内外へ広くアピールしていくための拠点として
- ① 地元の【文化／伝統／産業】資産の保全と育成のための展示・紹介スペース。
 - ② 地域を支える人材の保護と育成・拡大を狙った交流スペースの確保と活動推進。
 - ③ 他地域への拡大推進を図るための地域紹介と実戦場の提供。
4. 「異業種産業組合開発センター」
[ヒト・モノ・コト] の交流機能の開発と、企業・組織団体のネットワーク化からの新たなビジネスの開拓
- ① 東三河における産業活動の情報／機能集約・横断化をめざした、企業／組織団体の中核管理部門へのフロア貸しによる「産業組合ヘッドオフィス群」。
 - ② 新ビジネス開拓をめざす「新産業開発エンジニアリング事業部」の開設。
5. 「プロデューサーズオフィス」
[業態革新] 推進に向けてのディベロッパースタンスによる産業ビジネスプロデュース機関。
- ① 一般市場に出る前のプロデュース業務におけるマーケティング最前線場としての「プロジェクト推進室」の設置。
 - ② コンベンション事業へのオペレーション及び管理を行う「コンベンションビューロー」の設置。

II 「トレードセンター」

国際的レベルでの【情報／人／ビジネス】との接点として—

- ① 各国の多種多様な情報のピックアップが容易にできる
「国際インフォメーション」ゾーン。
- ② 国内外より最先端【ビジネス／製品／技術】を収集・発信する
「インターナショナル・レビュー」ゾーン。
- ③ 【国際ビジネス振興・企業育成】への活用を目的とした、
【産業情報／ビジネスノウハウ】を集約化した
「ビジネスフォローコンプレックス」ゾーン。
- ④ 外国人ビジネスマン家族を含む、地元生活者のための
地域活動拠点としての
「地域コミュニケーション」ゾーン。
- ⑤ 国内外よりの来訪者(観光・ビジネス)のため、地元アミューズメントとの接觸場として
「東三河ライブアミューズメント」ゾーン。

III

「オートフォーラム」

国内外の複数メーカー(ディーラー)の参画による
自動車業界固有のチャネル制専販制の枠を超えた
ユーザーサイドの【車の館】。

詳細別紙

- ① 国内外の複数メーカー(ディーラー)の参画によるオートアプローチからの
イ展示・営業、口物販・サービス事業、ハ情報イベント提供の入れ込み。
- ② 各メーカーベースにおける、メーカー保有のメディア・映像を提供しての多彩な
情報発信場づくり。
- ③ 各メーカーベースにおけるディベロッパースタンスによる空間構成。
各社の展示・コンベンション運営に伴う【営業／研究／開発】のための
ヘッドオフィス導入。
- ④ 「オートリゾートパーク」との隣接・連動による相互波及効果の獲得。

IV

「国際宇宙大学」専門施設

未来型産業「航空宇宙開発産業」領域
の国際的中枢施設の導入・開発化。

詳細別紙

- ① 宇宙関連の知識修得・研究活動を行う学生・研究者、航空宇宙産業に携わる
技術者等をターゲットとした高度宇宙科学・技術関連教育機関「セミナーハウス」
の開設。
- ② 「スペースエデュケーションプロデュースセンター」における、イ宇宙領域に
関する人材派遣及び教材のレンタルサービス、口教育プログラムの作成等。
- ③ 「大型コンピューター」へのデータ・情報のストック化による、イ関連情報の
データベースソフトの製作・販売、ロデータファイル保存サービス等。

V

大型コンピューターフロア

- ① 大型コンピューターを共同利用化することで、
開発与件・マーケット与件を捉えた高い事業採算性を獲得。
- ② 東三河地域における①都市機能の補完②ビジネス拠点として、総合情報管理センター機能づくり。

「産業ビジネス・レビュー・コンベンション」

目的

自動車・工作機械、弱電におけるトップメーカーの生産・開発ラインの拠点群として稼働し、愛知県／中部圏における実質的な企業投資が集中投下されている東三河において「コンベンションを基軸とする複合施設」を設置し、これを拠点として中部圏産業のネットワーク化を図ることにより、中部圏内大型プロジェクトへの大手企業投資の獲得を可能とさせる。

当エリアの【産業／技術／文化】資産を集約し、中部経済圏プロジェクト群に向けた支援として結実させていくための拠点として必要不可欠。

上記目的により希求される複合施設の主体施設としてのコンベンション施設の入れ込み。

事業コンセプト

- ①イ 自動車企業をはじめとする大手メーカーの集積
ロ 海岸線を中心に関連されるリゾート計画
——が進む東三河地域の基幹産業となり得る
「大型余暇ビジネス」領域にテーマを絞ってのコンベンション誘致。
▽
大手メーカーの主要生産工場が集積する東三河を「大型余暇ビジネス」の全国的拠点としてデビューさせることによる話題性の獲得。
- ②名古屋エリアとは大きく差別化を図っての展示・見本市・各種イベントの場として新しい情報発信拠点を形成。

基本的運営計画

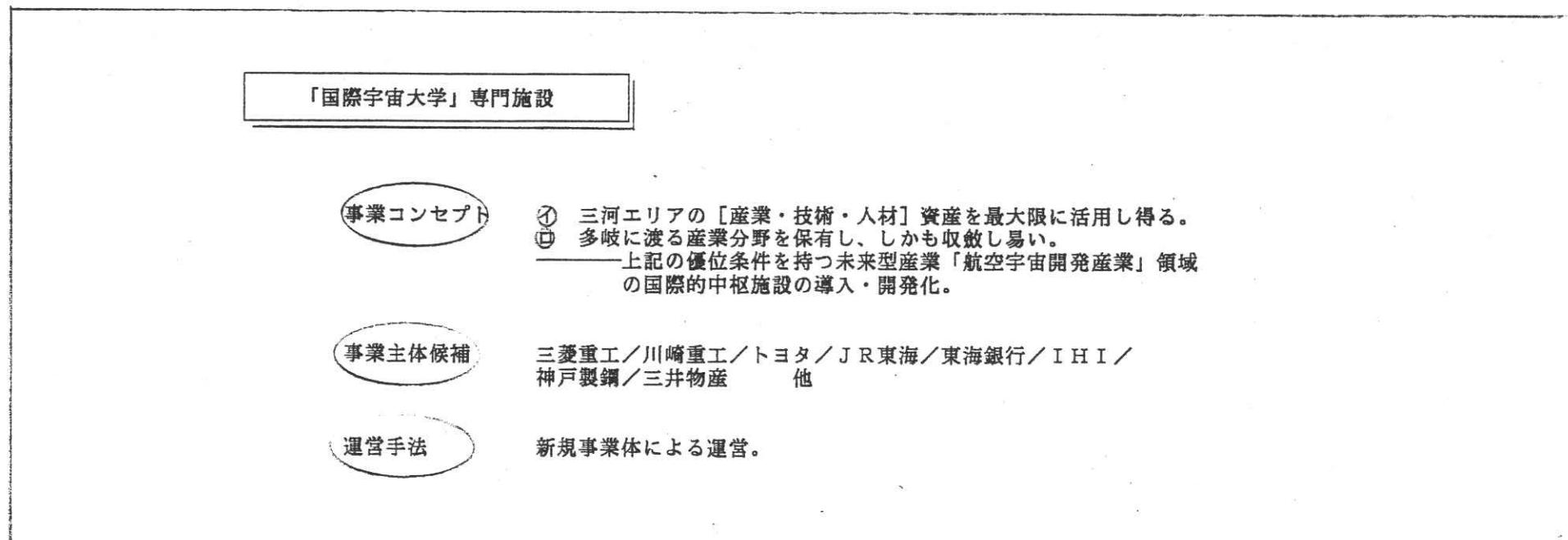
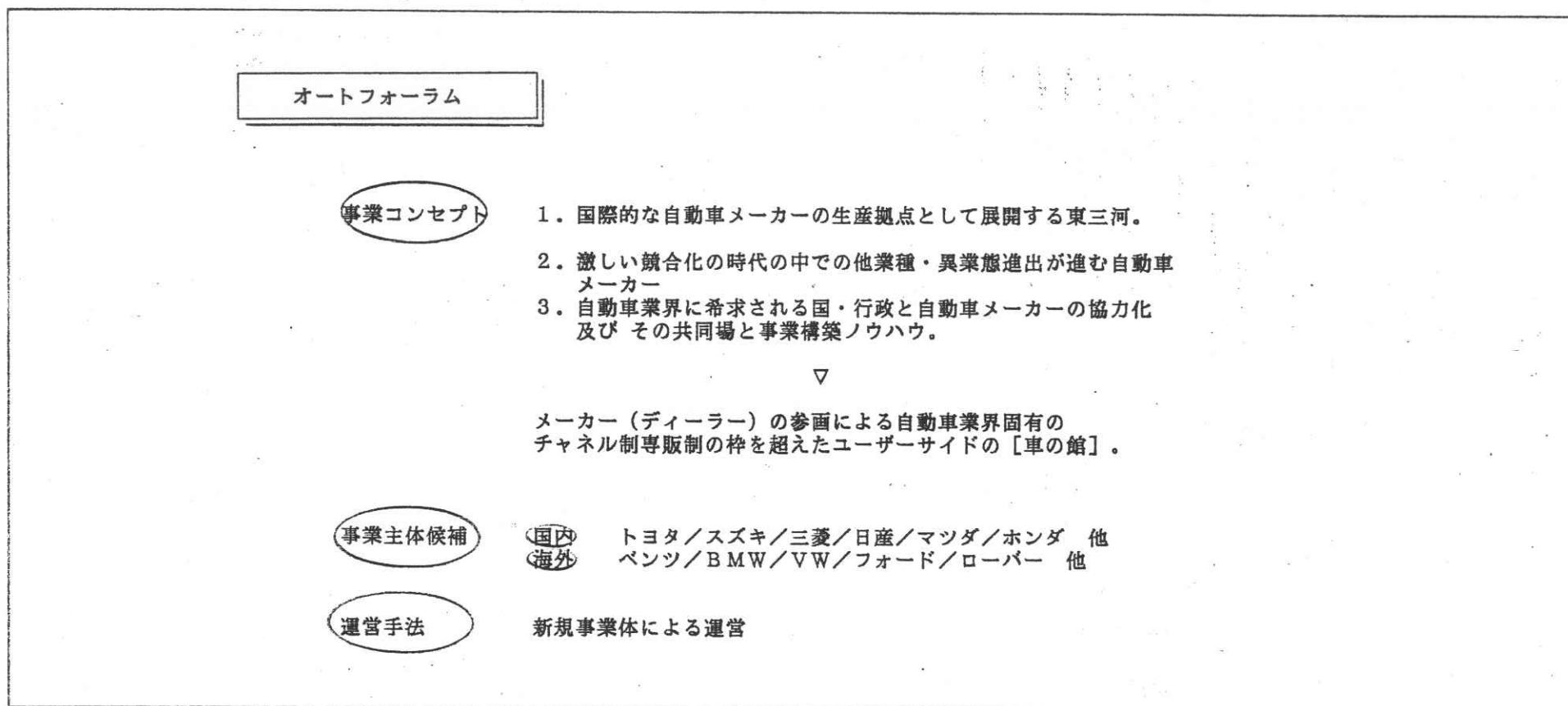
ヘッドオフィスとしての「プロデューサーズオフィス」（コンベンションピューロー含む）を設置し、東三河行政と民間から成る新規事業体による運営とする。

事業主体候補

大手 トヨタ自動車／ヤマハ発動機／三菱重工／神戸製鋼／川崎重工／ホンダ／その他レジャー産業関連メーカー群
地元 運輸・観光・サービス関連企業群

ユーザー候補

大型余暇ビジネス関連企業群／地元中小企業群



大型コンピューターフロア

異業種産業開発組合センター

各種産業組合ヘッドオフィス群

トレードセンター

10,000m²

産業交流ラウンジ

- ・貿易事務所
- ・諸外国企業 日本法人事務所

国際交流ロビー

- ・民間国際交流団体事務所
- ・留学生相談機関
- ・輸入品検査

帰国子女情報センター

フォーリンメッセ

ホームビジットカウンター

パスポートセンター

銀行／売店

テナント事務所

神野新田ホテル 350室

プロデューサーズオフィス

関連プロジェクト推進室

コンベンションビューロー

1,000m²

各メーカー ブース

各メーカー オフィス

研修施設

生活支援ビジネスセンター

500m²

オフィス支援センター
・OAセンター
・CCTVスタジオ
・図書室
・キオスク
・カウンタービジネス

オートリゾートパーク

オートフォーラム

展示営業スペース

3,000m²

物販サービススペース

1,000m²

情報イベントスペース

1,000m²

「国際宇宙大学」専門施設

大型電算プログラムセンター

セミナーハウス

スペース エデュケーション プロデュース センター

東三河産業会館

1,000m²

産業ビジネス コンベンション

大展示場

5,000m² (展示兼会議)

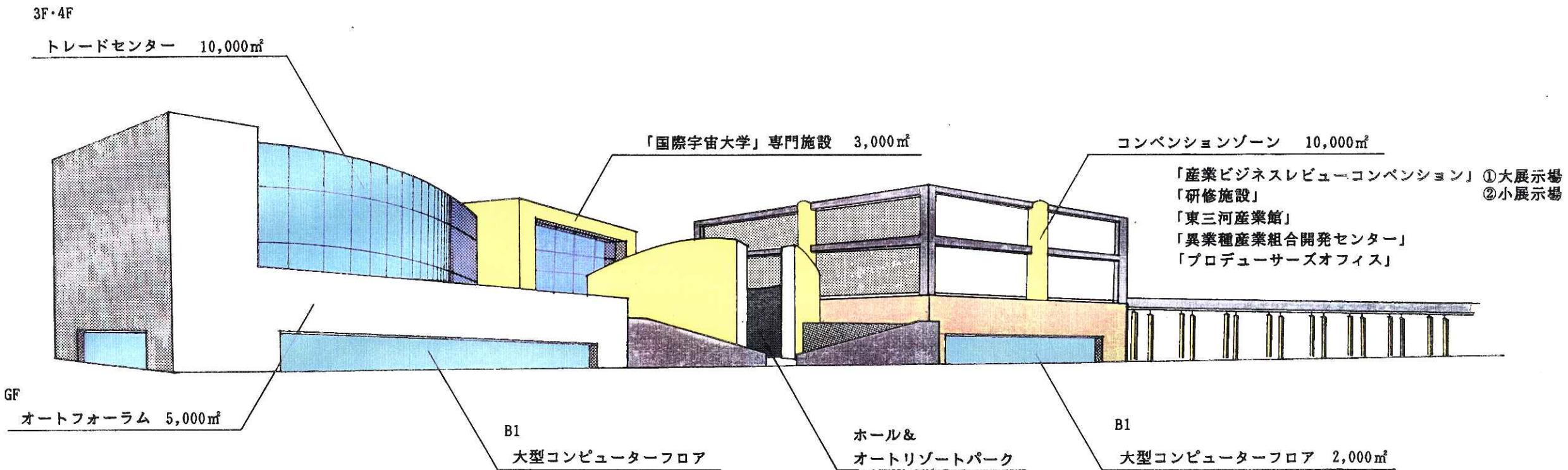
小展示場

1,000m² ()

【国際産業交流会館】施設リスト

事業名	施設名	面積	フロア	建設投資額
I コンベンションゾーン		10,000m ²		約26億円
「産業ビジネスレビュー コンベンション」	①大展示場 ②小展示場	5,000m ² 1,000m ²	GF	
「研修施設」	①研修室 ②研修コンサルティングセンター ③生活支援ビジネスセンター	1,000m ²	3F	
「東三河産業館」	①東三河産業展示室 ②地場産業振興センター	1,000m ²	3F	
「異業種産業組合開発センター」	①組合ヘッドオフィス群 ②新産業開発エンジニアリング事業部	1,000m ²	3F	
「プロデューサーズオフィス」	①関連プロジェクト推進室 ②コンベンションビューロー	1,000m ²	3F	
II 「トレードセンター」		10,000m ²	3F・4F	約30億円
	①産業交流ラウンジ ②国際交流ロビー ③帰国子女情報センター ④フォーリンメッセ ⑤ホームビジットカウンター ⑥パスポートセンター ⑦銀行/売店 ⑧テナント事務所			
III 「オートフォーラム」		5,000m ²	GF	約15億円
	①展示営業スペース ②物販サービススペース ③情報イベントスペース ④各メーカーオフィス ⑤各メーカーブース ⑥オフィス支援センター	3,000m ² 1,000m ² 1,000m ²		
			上記に含む	
IV 「国際宇宙大学」専門施設		3,000m ²	GF	約14億円
	①セミナーハウス ②スペースエフェクションプロデュースセンター ③大型電算部プログラムセンター			
V 「大型コンピューターフロア」		2,000m ²	B1	約 5億円
	①大型コンピュータールーム ②情報処理サービスセンター ③テナントオフィス			(コンピューター設置費別途)
		総延べ床面積 30,000m ²		建設投資総額 約90億円
				創業費及びビューローを含む 初頭(3年)運営費 約10億円
				総計 約100億円

「国際産業交流会館」開発事業



Exterior View